

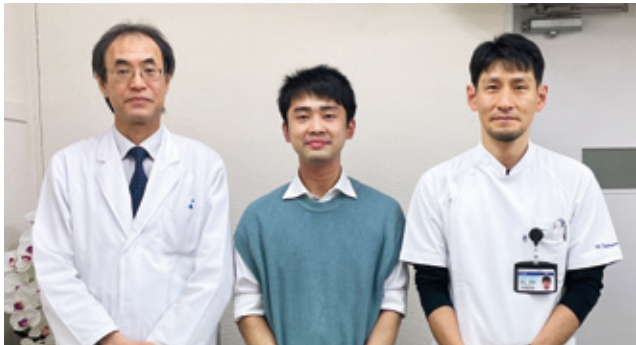
1.6

リサーチ・クラークシップ参加学生の論文が日本血液学会英文誌に掲載されました

医学科6年(当時) 柴崎 史隆

この度、「High levels of factor VIII activity in patients with acquired hemophilia A in remission are associated with unusually low coagulation potentials」の筆頭著者として International Journal of Hematology にご掲載いただきました。2年次のリサーチ・クラークシップから研究に携わらせていただきましたが、このような形でご掲載いただけたことを大変光栄に思います。

ご多忙の中、ご指導いただいた武山先生をはじめとした小児科学研究室の先生方や、ラボテクニシャンの方々に厚く御礼申し上げます。



野上教授、柴崎君、武山准教授

1.24

新年度に向けたイベント出展検討が始まりました

MBT 研究所では、定期的に MBT 活動についての進捗報告、各種企画調整のための運営会議を行っています。

令和5年第1回目の運営会議では、1月14日に東京にて開催した第2回 MBT 映画祭の開催報告が実施されました。参加者傾向や当日スタッフからのコメントを参考として今後の課題を洗い出すとともに、次回以降の開催に向け解決策の検討を行いました。

また、けいはんな学研都市や経団連などの連携先との共同事業の進捗状況について全体へ共有が行われ、次年度以降開催予定の連携先イベント等への参加検討も始まりました。

今後も MBT の成果を広く知っていただけるよう、連携機関と共に様々な事業に取り組んでまいります。



2.1

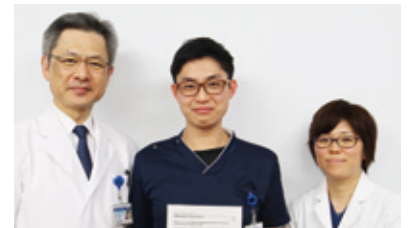
医学科6年生今津君筆頭著者の論文が Langenbecks Arch Surg 誌に掲載されました

医学科6年 今津 勇輝

2年次のリサーチクラークシップより継続していましたが研究の成果が“Distinct role of tumor-infiltrating lymphocytes between synchronous and metachronous colorectal cancer.”として Langenbecks Arch Surg 誌に掲載されました。本研究では同時性 / 異時性大腸癌肝転移における免疫学的応答の相違を検討しました。ご指導賜りました庄雅之教授、松尾泰子先生をはじめ共著者の先生方、消化器・総合外科学教室の先生方、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。今後も精進してまいりますので、ご指導のほど何卒よろしくお願いたします。

消化器・総合外科学 教授 庄 雅之

この度、今津勇輝君が筆頭著者である論文が、Langenbecks Arch Surg 誌に掲載されました。本研究では大腸癌肝転移における同時性 / 異時性転移の相違に関して、機序の一旦を免疫学的アプローチにより新たに解明しました。今津君は当教室でのリサーチクラークシップ以降、地道な研究活動を続け、着実に成果も出し続けています。今後、益々大きく成長し、国内外で活躍できるように、教室としてもできる限りのサポートを行なっていきたいと思っております。



庄教授、今津君、松尾診療助教

2.1

叙勲伝達式を行いました

叙勲は、国家または公共のため功労のあった方を対象に授与されています。

令和4年11月3日に令和4年秋の受章者の発令があり、元中央放射線部技師長(H19.4.1~H25.3.31)兼 元附属病院副院長(H19.5.1~H25.3.31)の上野山文男氏が瑞宝双光章を受章されました。新型コロナウイルス感染症の影響で勲章伝達式が実施されなかったため、細井理事長・学長から2月1日に伝達させていただきました。瑞宝双光章の受章、心からお祝い申し上げます。



西村技師長、細井理事長、上野山氏、吉川病院長